伊賀山精三君に

岸田國士

青空文庫

十二月号の本誌（「劇作」）に掲載された君の力作『唯ひとりの人』を、たつた今読み了りました。

佳作だと思ひます。これまでの君は、ここで見違へるほど成長してゐました。「大きくなつたね」と云ひたいところです。君が昨日まで如何にも得意らしく冠つてゐた「赤い帽子」を、いつの間にか投げすてて、静かに椅子の上で「坐禅を組んで」ゐる姿は、誠に頼もしく見えますが、今、君をちよつと驚かして、床の上を歩かしてみたくも思ひます。これは決して僕の悪戯気ではない。君がほんたうに、と云つて悪ければ、永久に、あの「赤い帽子」を脱ぎすてたのかどうかをたしかめたいからです。

が、これだけ長いものを書いて、筆力と空想に、終りまでたるみを見せなかつたことは偉とすべきです。サルマン風の抒情味は程よく君の好みを生かしてゐ、対話も、まづ、あれだけにこなしてあれば十分でせう。ただ、僕が、この作品の根本的欠陥として指摘したいのは、象徴的にさへ取扱ふべき主題を、徒らに感情の論理化を求めて、著しく印象の混乱を招いてゐることです。言ひ換へれば、人物のそれぞれを理想化しつつ、その心理過程は飽くまでも現実的であるといふ矛盾です。これは結局、君の劇的イメエジを構成する二つの流れが、最初から別れて、二つの道を辿りつづけたことに原因があるのでせう。こいつは、どうあつても一体となるべきであつて、一戯曲が「生れる」ときには自らさうなつてゐるのですが、「作る」ときには、知らず識らず併行したままで終ることを、僕らも気づいてゐるのです。

なにはともあれ、君の精進に対し、敬意を表します。（一九三三・一）

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集22」岩波書店
　　1990（平成2）年10月8日発行
底本の親本：「現代演劇論」白水社
　　1936（昭和11）年11月20日発行
初出：「劇作　第二巻第一号」
　　1933（昭和8）年1月1日発行
入力：tatsuki
校正：門田裕志
2009年9月5日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

伊賀山精三君に

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/